

8:05-図書館8:12警察前8:45バス登8:57-上大岡着、[本番] 8:45着、[参加20名]

第四十八回「本郷ふじやま古民家歴史部会」歴史探訪

「東海道の歴史を探る追加」

(京急) 上大岡8:57平和島9:10 9:18-大森海岸着9:20
(快特) II 旧東海道内川橋・磐井神社・鈴ヶ森遺跡・大経寺・なみだ橋・品川歴史館・大森貝塚遺跡庭園

作成平成21年6月古民家歴史部会員 原本

平成22年5月6日(木)「集合；京急大森海岸駅改札口10時」同刻出発します。

行 程；大森海岸駅→(説明のみ旧東街道・内川橋)→磐井神社→鈴ヶ森刑場跡・大経寺→浜川橋→

天祖諏訪神社→大井の水神→鹿島神社→品川史跡館→大森貝塚跡公園→JR大森駅着。

昼食場所；駅の中のホレル「大森東急インレストラン」日替わり定食1360税込。

電話；03-3768-0109。

品川宿の概要(東京日本橋から最初の宿場・2里)

地名の由来は目黒川(江戸時代は大きく左に曲がっていた・宿場東側・洲、獵師町、漁師町)の古名を品川と言った事からと言われる。品川宿は宿駅伝馬制度が出来た(慶長6年、1601)最初に付加され成立した。東京湾に面し、中世以来早くから六浦(金沢)と共に、物資の集散地として陸海交通の要衝として栄えてきた。日本橋から最初の宿で、2里、川崎へ2里18町(9.8k)の位置にある。宿内町並は19町40間(2.1k)で、歩行(舩)新宿・北品川・南品川の3町で構成され、規模は江戸後期で人口6890人(男3272/女3618)家数1561軒、本陣1(北品川135坪)脇本陣2軒、問屋場1、旅籠93軒(東海道宿村大概帳)。

品川宿は海の景色、新鮮な海の幸があり、宿場町としてでなく、江戸の人々の行楽地として江戸初期から賑わった(桜・潮干狩・紅葉)。又、寺・武家屋敷に近いという場所柄北の吉原に対し南国品川と称され多くの飯盛女(宿場遊女・旅籠に飯盛女置く事認められていた、500人認定に対し1500人とも)が賑わいを支えていた。

天保14年(1843)品川宿規模；宿高987石089合・人口等上記参照。

1・旧東海道(三原通り=現美原)・内川橋・

昭和2年東海道は拡幅改修され、第1京浜国道が完成。その為往時の復員を比較的残している旧道は、この美原(三原地区；南原・中原・北原に由来)通りと六郷地区の一部だけとなった。歌舞伎※「浮世柄比翼稲妻」(ウキヨヅカヒヨクイヅマ・4世鶴屋南北作世話物)で有名な、旅籠「駿河屋」のあった「駿河屋通り」は、内川橋から分かれる。

※歌舞伎脚本の1。1823年（文政6）江戸市村座初演。不破名古屋（岐阜県不破郡関ヶ原）の鞘当てに幡随院長兵衛・白井権八・小柴をからめた筋。「鞘当」「鈴が森」と通称される場が有名。不破半左衛門と名古屋山三郎とが遊女葛城（カツギ）を争って鞘当てした事から、2人の男が1人の女を目当てに争う、恋の歌舞伎の一場面。

10:00~10:07
2・磐井神社（伊、武蔵国八幡社総社別名鈴森八幡宮・祭神、応神天皇・大己貴命、材木杵杵・仲哀、
ツツイ天皇・神功、ジツグワリ皇后・中津姫大神・大田区文化財；磐井の古井戸、鈴石非公開、烏石非公開、
江戸文人石碑群）

磐井神社は「延喜式」神名帳に載っている古い社である。「江戸名所絵図」によると、この社に鈴石があり、その石をたたくと鈴の音がするのが鈴ヶ森の地名の由来としている。注；「延喜式」（延喜格式・エノギヤクシ）法令集、905（延喜5）左大臣藤原時平らが勅命によって編集を開始、927年（延長5）完成40巻、諸官庁の実務手続き、儀式、政事の細訓、全国名神大社の祭神名列挙等記され朝廷を中心とした貴族政治の規範となった。

○ 磐井の井戸；東海道往来の旅人に利用され、霊水又は、薬水と称され古来有名。この位置は元境内にあった。土地の人は、この井戸水を飲むと、心正しければ清水、心邪（ヨシマ）ならば塩水、と言う伝説を昔から伝える。

○ 鈴石・烏石（ウシ・非公開）・江戸文人石碑群；鈴石は延暦年間（782～806年）に武蔵国国司であった石川氏が奉納した神功（ジツグワリ・仲哀天皇皇后）皇后ゆかりの石とされる。烏石は、烏の模様が浮き出た自然石で、江戸時代の書家、松下烏石（ウシ？～1779年・安永8）が寄進した。鈴石、烏石ともに屋内に保管。

○ 江戸文人石碑群；この烏石の由来を記した烏石碑をはじめ、松下烏石の門人等が建立寄進したもので、向かって右から次のように並んでいる。

狸筆塚文化6年（1809）・退筆塚天明6年（1786）・竹岡先生書学碑寛政8年（1796）・烏石碑元文6年（1741）、此らは、かつて弁天池周辺にあったが、神社境内整備に伴って現在地に移された。

10:12~14
3・密厳院（ミツゴンイン・真言宗智山派新義派大本山智積院末・八幡山祈念寺・本尊不動明王・寺宝お七地藏、閻魔大王）

地蔵菩薩立像（俗称お七地蔵）は、八百屋お七は恋のために放火し、江戸の大火を引き起こしたため、鈴が森刑場で処刑された。その霊を慰めるために、お七の住んでいた小石川の念仏講の人々が、三回忌にあたる貞享2年（1685）に建てたもの。庚申供養塔；寛文2年（1662）建立で、区内2番目に古いもので。手指を法界定印に結んだ阿弥陀像が半肉彫りされている。

10:32~55
4・鈴が森刑場（獄門場・南大井2-5）

日光道中の小塚原と共に江戸時代のお仕置場であった。記録（1695年・元禄8）によれば間口40間（72m）、奥行8間（14m）の広さがあったと言う。江戸時代の刑罰は厳しく、10両以上盗めば死刑、単なる死罪は伝馬町の獄で執行されたが、獄門の場合は獄内で打ち首の後、鈴ヶ森・小塚原に首を3日間さらした（さらし首）。磔・火刑（ハツ・火あぶり）の場合は、江戸市中引き回しのうえ、鈴ヶ森・小塚原で執行した。設置1651年（慶安4）廃止1870年（明治3）。

処刑第1号1651年（慶安4）丸橋忠弥（由井正雪と幕府転覆を謀った）・その他八百屋お七（恋人に会いたさに本郷放火）・天一坊（吉宗の御落胤を謀った）・平井権八（白井権八・遊興費に困って窃盗強盗）等が上げられる。

「南妙法蓮華経」と記した髭題目の碑は、1698年（元禄11）池上本門寺貫主の日凱が処刑された人々の供養のため書いて建てたものである。

5・大経寺（ダキョウジ・日蓮宗）

本寺にある台石は火あぶり・磔に用いられたものである。

6・浜川橋（立会川・平成16年ボラ押し寄せる、出世魚・オボコ・スバシリ・イナ・ボラ・トド、とどのつまり）

刑場に向かう罪人が此处でこの世に別れを告げた事から「なみだ橋」とも言う。

10:47~55
7・天祖諏訪神社、福祿寿（東海七福神めぐり・品川神社、大黒天・養願寺、布袋・一心寺、寿老人・荏原神社、恵比寿・品川寺、毘沙門天・磐井神社、弁財天）

8・大井の水神（柳の清水・区指定史跡） 11:27~30

水神は大井村の農業用水の潤沢を祈って貞享2年（1686）に勧請され、水を確保する守護神として祀ったもの。湧き水は「柳の清水」名付けられ、日照りの時には村人が境内に集まり、雨乞いを祈願する信仰行事が明治頃まで続いたと言う。

~~品川用水~~ 米迎院石像新に蒲快巻巻 11:05-37
9・品川用水（池上通り坂を下げきった処の十字路・大井6-11辺り・鹿島神社境内に碑）

12:05
1667年（寛文7）村民の願いで玉川上水から分流した品川用水が西から東へ流れていた。昭和初年まで灌漑用水として利用されてきたが現在は暗渠となり、品川区と大田区境を示す道路となっている。

10・中世道路跡発見の地（山王1-6）

南大井町 11:05-11:18
(しんげん)
平成13年、ビル建設前の発掘調査の結果、長さ15.5m幅3.8mの道路跡が、池上通り（バス通り）に沿って発見された。室町時代土器が出土しており、中世道路跡と考えられ、路面下からは奈良時代の須恵器が出土、古代東海道の大井の駅に至る駅路を踏襲していたとも考えられ、中世の鎌倉街道に関係すると推定されるという。

11:40-12:00
11・品川史跡館（03-3777-0014）品川区教育委員会ホームページ・品川歴史観林ホームページ・月祝休・観覧料一般100円、小中学生50円、団体20名以上2割引特別展除く、70歳以上無料、歴史を学ぶ学習センター・原始古代から現代までの品川区の歴史・特別展・企画展・図書資料室等。モース博士と大森貝塚ロビー（2階）。

12:08-10
12・鹿島神社「祭神武甕槌命・大己貴命・例祭10月第3日曜日・神紋流巴・芸能大井囃江戸中期より伝承・無文」

冷泉天皇安和2年(969)、南品川常行寺尊栄法師が茨城県鹿島郡鹿島神宮より、分霊を勧請当地に祀る・タブノキ品川区天園記念物指定・2月節分追儀式・2月11日建国記念祭。旧本殿奥宮として奉祀（文化8年1811改築時？現社殿昭和6年改築？）

12:15-20
13・大森貝塚遺跡公園；中央部に地層イメージした回廊と霧発生噴水・博士の誕生地アメリカポートランド市と姉妹都市提携を結んで整備、昭和59年一部開園、平成5年一部改修、同7年大改修、同8年敷地広げて開園・大森貝塚碑、品川区国史跡、1929年＝昭和4 毎日新聞社社長本山彦一や石川千代松らによって建立・大田区大森貝塚碑；大田区国史跡、大田区の碑は翌年

1877年（明治10）アメリカから来日した動物学者モース（Morse）が、新橋・横浜間の車窓から発見・発掘した地点は何処かと問題にされてきたが、現在でも碑の周辺に縄文時代の貝殻が散らばっている品川区の方であるという説が有力である。台地の縁辺（エバン・周辺・廻り、一緒国）で、東側に低くなっている地域は、縄文時代は海であった。

12:25
14・円能寺・成田山大森不動尊（真言宗智山派・成田山・本尊不動明王・寺宝四大明王・東京百観音42

札所)

太田川側川貝場 12:30~35

天正5年(1577)祐仙が開山。昭和27年成田山新勝寺直末。

15・八景坂(山王2-3-5付近)

大森駅前のバス通りの坂道は、かつては相当な急坂で、あたかも薬草等を刻む薬研(ヤヅ)の溝のようだったので、薬研坂とも言われた。坂道からの眺めは素晴らしく、八勝景が選ばれたことから、名付けられたという。天祖神社境内にある句碑の裏面に、八景詩は刻まれている。なお神社脇の坂の壁面には馬込文士村を紹介した似顔絵などのレリーフがはめこまれている。

参考資料

大森駅 12:40 解散

善慶寺(日蓮宗)・新井宿義民六人衆(山王3-22)・新井宿村名主※惣百姓等訴状写し都指定文化財
非公開

善慶寺の境内に江戸時代の新井宿義民六人衆の墓がある。この辺りは旗本領で、領主木原義永の過酷な支配に苦しんだ農民を代表して、1677年(延宝5)新井宿村の村民6人が4代将軍家綱に直訴しようとした。しかし、密告者が出て6人は捕らえられ、斬首された。当時は罪人の墓をつくることは禁じられていたが村民は彼らの冥福を祈って密かに墓をつくった。墓石の表面に他人の名を、他の三面には6人の戒名を刻み、台石の四面に花立てと水入れを彫り、その間をくりぬいて、正面から水を注げば裏面にも回るよう工夫した。現在は当時の正面が裏面になっている。寺には義民六人衆の訴状控え(都有形)も保存されている。注;※惣(莊園解体期の村民共同体結合)。

